

<研究ノート>

地域内乗数効果 (local multiplier effect)

概念の可能性

福 士 正 博

はじめに

ニューエコノミックス運動の拠点となっているニューエコノミックス・ファウンデーション (New Economics Foundation, 以下 NEF *) は、かねてから平和、民主主義、貧困、途上国の累積債務 (ジュビリー2000)、公平貿易、グローバル経済の再編成、社会福祉、環境保全など幅広い分野で活動を行ってきたが、最近その一環として、地域経済の活性化・再生を研究テーマの一つに掲げ、社会的企業 (social enterprise) の発展、タイム・バンク (Time Banks) の設立、コミュニティ・カウントの開発などの試みを行っている。NEF の活動の特徴は、市民が抱えている様々な分野の問題を具体的な実践を通して解決しようとする一方、そこで直面した諸問題を理論的に掘り下げ、次の活動に活かそうとする姿勢を持ち続けていることである。NEF の強みは、その意味で、常に活動の現場を持ち、そこで発見した問題関心を持ち帰り、理論的な検証を行おうとしていることにある。NEF が最近、地域内乗数効果 (local multiplier effect) 概念に注目し、地域経済発展の指標として地域内乗数3 (local multiplier 3, LM 3) を開発しているのも、そうした姿勢の表れである。国際化の荒波に呑み込まれ、衰退・疲弊している地域が多くなっている現在、地域経済を活性化させる新しい視点が求められている。地域内乗数効果概念には、地域経済の発展につながる、これまでにはなかった新しい視点が含まれていると言えよう。NEF の活動拠点はイギリスであるが、ほぼ同じような問題を抱えているわが国にとっても、この概念は重要な意味を持っていると考えることができる。

この小論の目的は、NEF が開発している地域内乗数効果概念を紹介し、その意義を明らかにすることにある。NEF は多くの人々がこの概念を容易に理解できるように、いくつかの図を用意して説明しているが、この小論でも、それらを使って議論を進めていくことにしたい。地域経済の再生のために、わが国でこの概念をどのように活用できるのかを考える足がかりをつかむことを展望している。

I 地域経済の活性化とは何か？

さて、地域経済を活性化（再生）するとはどのような意味なのだろうか。雇用が拡大する、消費が伸びる、投資が行われる……など、いくつかの指標が考えられるだろう。これらの指標が重要であることは言うまでもない。しかしこれらの指標を駆使しても、地域経済の現状は理解できたとしても、そこからどのようにすればよいのかという答えは出てきにくい。これに対して NEF は、この設問に、「その地域に資金が多く循環していること」、すなわち地域内資金循環がうまく行われていることであると答えた。ここで問題にされているのは、「その資金がどれだけ機能しているのか、換言すれば、最終的にその資金が地域から離れていく前に、何回地域内で使われているのか」ということである。これまでケインズ経済学が主張してきた乗数効果は、この設問に十分に答えていない。当該地域に資金が多く循環するには、公共事業などの実施によって、外部から資金を投入することも一つの手立てである。地域経済の活性化のために、公共事業など地域の外の資金を投入することも有効であるかもしれない。しかし、乗数理論は、地域内乗数効果といった、ミクロなレベルに置き換えられなければ機能しないし、以下で述べるような NEF が考えている新しい視点も出てこない。したがってこれだけが答の全てではないし、このようなトリクルダウン方式が機能不全を起こしている現実もある。地域経済を活性化させるという NEF の活動の中には、ケインズ経済学が主張する乗数効果概念に対する批判を含んでいる。それは次の二つの意味においてである。

- ①資金が当該地域の隅々にまで循環することによる経済効果が発揮されること（灌漑 irrigation）
- ②資金が外に逃げていかず、内部で循環することによって、その機能が十分に発揮することができること（「漏れ口を塞ぐ」 plugging the leaks）

1997年の総選挙で政権についたブレア内閣は、地域経済の活性化を課題の一つに挙げ、『近隣地域再生のための国家戦略』(National Strategy for Neighbourhood Renewal, 1998)の中で、「問題なのは、ごくわずかな資金が近隣に流れ込んでこないということでは必ずしもない。むしろ問題なのは、消費者、公共サービスそしてビジネスがその資金とどのように関わるのかということである」と述べている。後述するように、ケインズ乗数効果理論は、経済効果を上げるためにまず当該地域に資金を投入することを問題にしているが、この引用文はむしろ投入された資金をどのように使うか、或いはその資金が地域から出ていかないようにするにはどのようにすればよいかを問題にしているという点で、対照的な立場に立った議論を行っている。戦後の先進国はこのようなケインズ的経済成長理論に基づいて、国家予算の相当部分を割き、乗数的効果を高める前提として「上からの」投資を積極的に進めてき

た。国家セクターが肥大化することと歩調を合わせて、公共投資は拡大し、地域における乗数効果を高める政策努力を続けてきた。確かに戦後一時期まで、ある程度その効果は上がったかもしれない。しかし現在はどうか。公共投資が拡大しているにもかかわらず、何故地域経済は疲弊しているのか。国家財政が危機に瀕しているとき、そもそもどこまで公共投資を続けることができるのか。逆に公共投資活動を続けることによって、自律した地域経済の歩みを損ねているのではないか。NEFのねらいは、地域内乗数効果概念によって、社会的企業（コミュニティ・ビジネス）、地域通貨、市民金融などの試みを評価し、資金循環を法的に規制するのではなく、お金が地域内にとどまるような、「下から」積み上げた何らかの事業を行うことであった。

NEFが進めている活動は基本的にこのような活動を側面からサポートする研究活動である。両者の違いは、乗数効果を上げるためのたんなる方法論の違いというより、ケインズ的な乗数効果理論が直面している行き詰まりを打開し、それに代わる意図を持った活動を反映したものである。地域内乗数効果も、その言葉どおり、乗数効果を問題にしているが、基本的にケインズ的な乗数効果理論を批判する立場から現れた概念とすることができるだろう。

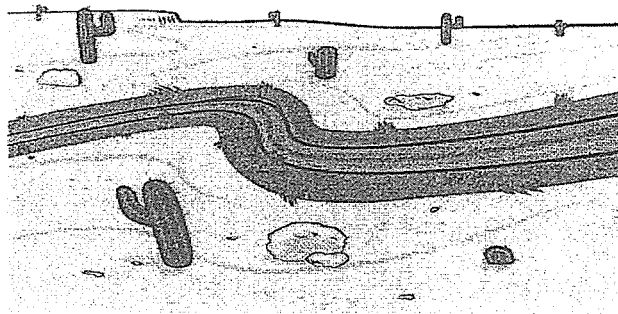
①灌漑 (irrigation)

これまでの乗数効果理論では、公共事業などを行うことによって所得上昇や雇用の拡大が見られた場合でも、当該地域の隅々にまで資金が行き届くことまで保障することはできなかった。第1図は、あまり雨が降らない地域の農地をイメージしたものである。疲弊した地域経済を表していると考えればよい。雨が降らないために、植物は育たず、不毛の地と化している。「あなたならこの地域をどのように豊かにするだろうか?」。NEFの問いはここから始まっている。

公共事業が行うことができるのは、これまで不毛であった砂漠地帯に資金を投入することによって、一本の川を作り、そこに水を流すことだけである。この図にも大きな川が流れて

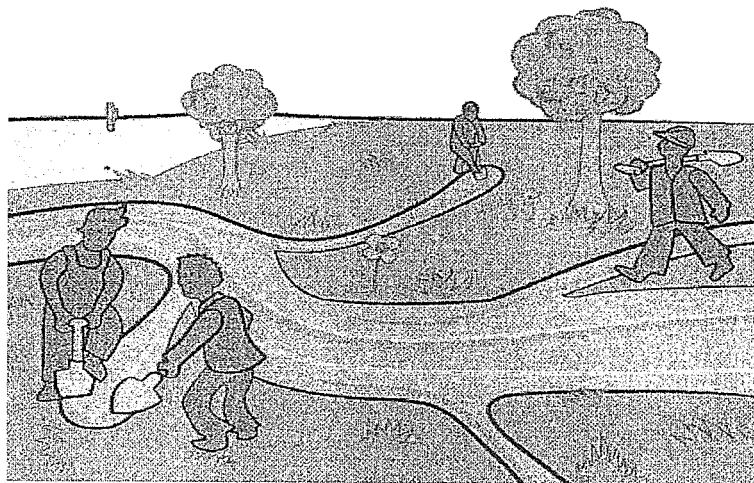
第1図

Imagine some farmland in an area with not enough rain



How do you make it fertile?

第2図
IRRIGATION



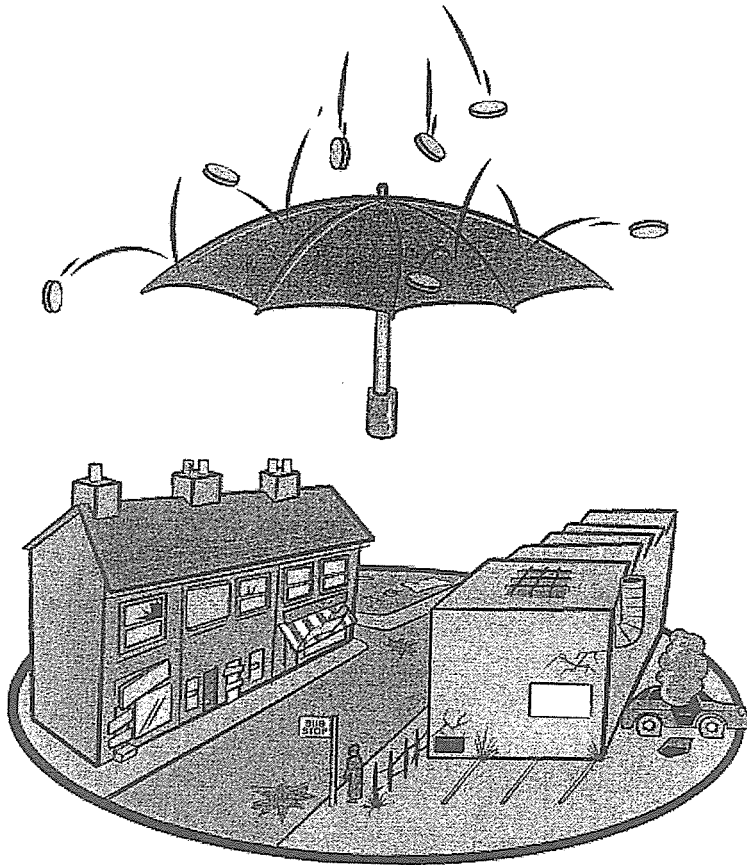
And so it is with money flows

いる。川が作られたことによって、確かに周辺流域で植物が育つようになったかもしれない。しかし大きな一本の川だけでは、効果はそれ以上に広がらない。周辺流域より更に効果が広がるようにするには、大きな川から派生した支流を何本も作ることが必要である。第2図はそれを示している。支流が集まって本流を作るのではない。逆に本流から分かれた支流をできるかぎり多く作ることによって、資金が地域の隅々に行き渡り、波及的経済効果を持つようにすることである。水とは資金のことである。当該地域の人々が自ら支流を作ることによって、限られた広がりしか持たなかった経済効果が広い地域にまで行き渡り、その結果植物は豊かに育つようになる。NEFはこれを比喩的に灌漑活動と呼んだ。

ここで大事なことは、当該地域の市民が自ら支流を作る活動を主体的に行っていることである。市民は自分の所まで水が流れてきて欲しいと切望してこうした灌漑活動を行っているのだから、そうした活動が多くなればなるほど、地域の隅々まで水が行き渡ることになる。すなわち支流を作る活動は、地域で行われている経済活動を指している。

ここで言う灌漑とは、不毛な砂漠地帯のように、貧しく、さびれてしまっているために、投入された資金がはじかれてしまい、ますますその状態から抜け出せなくなっている地域の経済実態を変えること、すなわち如雨露を通して資金が集まり、目標の場所に投下されるよう転換していく前提条件を作る活動を指している。第3図は、資金が投入されようとしても、傘が開いているために、大部分がはじかれてしまい、地域に入り込んでこない状況を描いたものである。そのために、街中は人通りがなく、朽ち果てそうな建物と空き店舗ばかりが目立つ疲弊した状況となっている。こうした状況を変えるには、傘を閉じること、すなわち資金が当該地域に投入できるようにミニ水路を張りめぐらせることが必要である。第4図

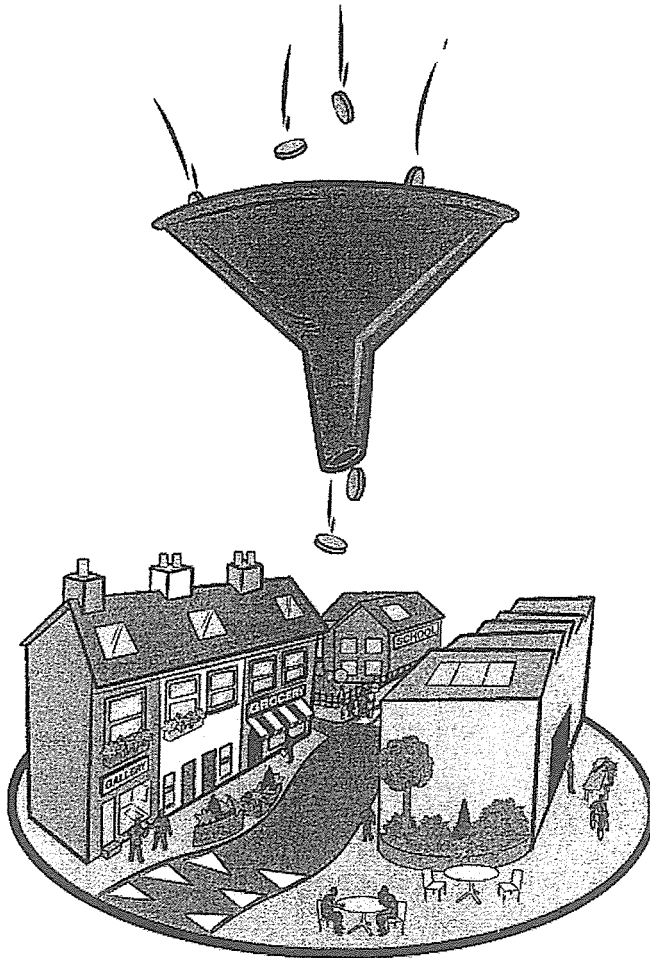
第 3 図
THE REGENERATION UMBRELLA



では、傘が如雨露に転じ、多方面から集められた資金が魅力的な地域へ投入された結果、人通りは多くなり、商店街も賑わいを見せるようになってきている。

NEF はこのように、「地域経済の発展とは、流入した利用可能なお金を地域生産性の増大のために利用する」灌漑地のようなものだと考えていた。農地全体を豊かにするには、大規模な水路をもう一つ別に作るのではなく、既存の水路から水を引き、地域の隅々に幅広く行き渡るように、ミニ水路を張りめぐらせることが必要である。ケインズのな公共投資事業は、この例えで言えば、大きな河川を引いただけで、ミニ水路を作ることまで想定したものではなかった。むしろそのような状況を理論的に想定できなかったという方が正しいだろう。「上からの」投資を、市民の主体性によって「下から」受け止めるフレームワークを準備できないからである。むしろそれは市民の主体性を育てることができない構造となっている。それは理論が不十分であるというより、本質的に抱えた欠陥といった方がよい。

第4図
THE FUNNEL

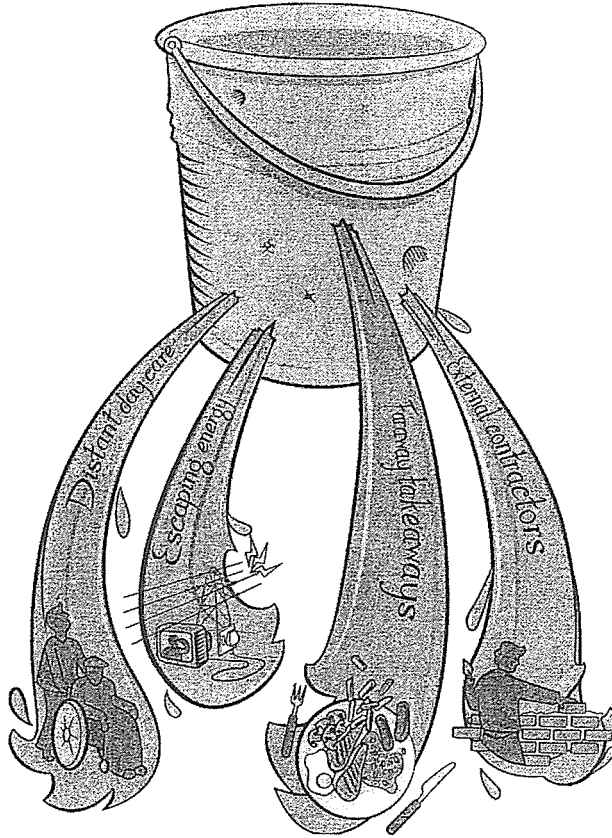


②「漏れ口を塞ぐ」 (plugging the leaks)

灌漑活動によって資金が行き渡る水路が作られたとしよう。この資金がうまく循環するには、更に次の二つの方法を考慮することが必要となる。第1に、出て行く資金以上の速さで資金を注ぎ込むこと、第2に、当該地域の外に出て行こうとする資金に対して、「漏れ口を塞ぐ」ことで、逃げないようにすることである。これまで経済学（とりわけケインズ経済学）は、前者の戦略にとらわれるあまりに、後者の方向を事実上無視してきた。公共事業を行っても、そこで生み出された所得が外部に吸収され（逃げ出し）、当該地域にとどまらないというのであれば、持続的な地域経済は望めない。資金は地域をただ素通りするだけで、定着しないことになる。観光客、福祉給付、企業投資、輸出収益など様々なルートで外部資金が入ってきても、漏れ口があるために資金が外へ出て行ってしまえば、地域経済

第 5 図 THE LEAKY BUCKET

Money leaks out of an economy in many different ways

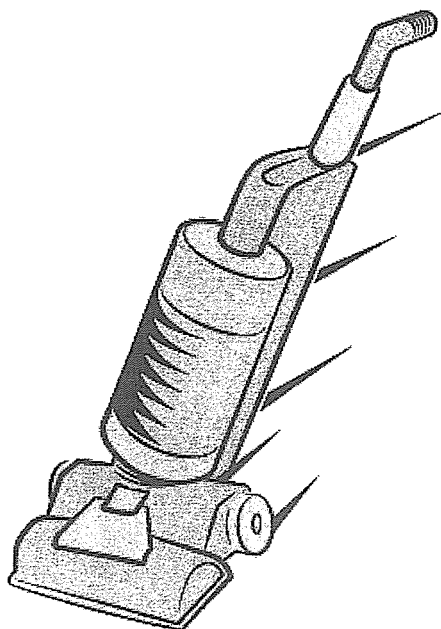


は依然として衰退したままである。したがって問題は、このような漏れ口をいち早く発見し、その穴を塞ぐことである。「富が地域からすぐさま流出してしまうならば、地域にとどまるものが何もないために、地域に入ってきたお金は最小期間しか影響を持たないことになる」。言うまでもなく、漏れ口を塞ぐことは、外部世界との繋がりを遮断しようということではない。その代わりに、全ての内部投資を最大限利用するために、地域の繋がりを増大しようとすることを目的としたものである。

第 5 図は、これらをイメージしたものである。せっかく資金が集められても、地域経済が穴の開いたバケツのようなものであるならば、資金は湯水のように地域の外に流失してしまうだろう。その結果、雇用は増えない、所得は増えない、再投資の機会も失われるといった状況が待ちうけている。「漏れ口を塞ぐ」とは、「あなたの地域経済に入ってくる全ての資金を最大限活用すること」を意味している。『近隣地域再生のための国家戦略』は、「資金はあまりにもしばしば地域サービスを受けずに、すばやく地域の外に逃げ出していつている」と

第6図 THE HOOVER

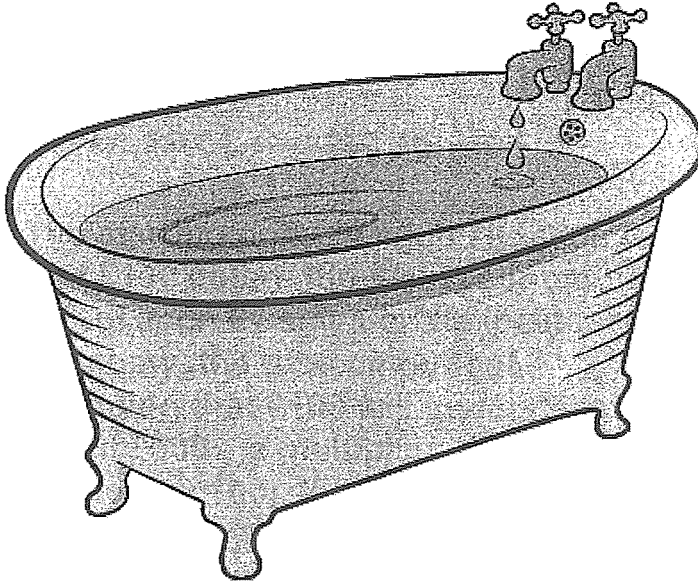
Takes money from within the local economy and deposits it elsewhere



指摘している。言うまでもなく、どの地域でも喉から手が出るほど資金が欲しいわけだから、ある地域に投入されずに余った資金は、吸い寄せられるように他の地域へ吸収されてしまうだろう。第6図のように、厳しい競争環境にさらされている地域経済は、掃除機のように他の地域から資金を吸い上げられてしまうことになる。掃除機とはある地域の経済から資金を吸い上げ、他の地域でためておく競争社会である。その結果、地域に眠った人的、物的資源は使用されずに、ますます疲弊してしまうことになる。

こうした「灌漑」と「漏れ口を塞ぐ」例からイメージされる理想的な地域経済とは、湯が十分に入れられたバスタブのようなものである。第7図のように、蛇口から入れられた湯がバスタブ全体に平均して行き渡り、また下水道につながる栓が閉められていることによって常に適正な量が保たれているといった状態である。この場合の湯とは資金である。したがって当該地域の経済的能力に合わせて資金が投入され、地域に満遍なく行き渡り、漏れ口が塞がれていることによって、適正な量の資金がうまく循環している状態が理想である。ケインズ経済学の有効性が疑問視されているのは、乗数効果理論に「灌漑」や「漏れ口を塞ぐ」ことを内在化することができなかつたために、次第に欠陥が露呈し始め、理論自体が破綻をきたすようになっているからである。公共事業の見直しが行われるようになってきているのも、こうした局面が現実に見えてきたからに他ならない。今求められているのは、こうした理想に近づける手立てを発見することにある。NEFはこうした問題関心から、このための研究チームを組んで、地域内乗数効果とLM3の開発に努めてきた。

第 7 図 THE BATHTUB
Collects and re-circulates money locally

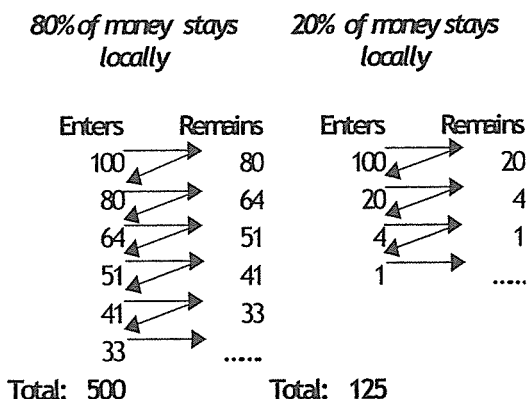


II 地域内乗数効果とは何か？

ケインズ経済学の理論的支柱の一つである乗数効果とは、「ある一定額の独立支出が、その波及効果が終わったとき、もとの数倍の所得を生み出す効果」という意味であり、主に国民経済に適用されてきた概念である。この小論のように、地域に乗数効果を適用する場合でも、乗数効果の定義や意味自体に変更があるわけではない。したがって両者の違いは、乗数効果の定義を取り上げているかぎり、表面的なものにしかすぎない。それにもかかわらず NEF がこの概念に注目しようとしているのは、乗数効果概念を地域に適用することで、これまでのケインズ経済学とは異なる視点から、地域経済の活性化につながる指標の開発が可能になると考えているからである。ケインズ経済学とは異なる視点というより、ケインズ経済学を批判する視点と言った方が正確かもしれない。地域内乗数効果の意義は、ケインズ経済学が陥った袋小路を、この概念がどのように克服しようとしているのかということにある。

第 8 図は、地域内乗数効果概念によって NEF が何を指そうとしているのかを端的に示している。この図は、いずれも 100 ポンドの投入資金を出発点にしている。ただし左の例は、地域内で 80%、したがって 80 ポンドが使用されると仮定している。最初のラウンドで当該地域内に残った 80 ポンドは、第 2 ラウンドでそのうちの 80%、すなわち 64 ポンドが

第8図 THE MULTIPLIER



The starting point in each situation is that £100 enters the local economy. If 80% of each £1 stays in the local economy, the total amount of spending that £100 will generate is about £500 – a multiplier of 5 (500 divided by 100). If only 25% of each £1 spent stays in the local economy, the total spending is only £125. This gives a multiplier of 1.25 (125 divided by 100).

残り、更に第3ラウンドで51ポンドが残ることになる……。それに対して、右の例は20%、したがって20ポンドが使用されると仮定している。したがって最初のラウンドで当該地域内に残った20ポンドは、第2ラウンドでそのうちの20%、すなわち4ポンドが残り、更に第3ラウンドで0.8ポンドしか残らない……。左の例では資金が何人かの人々の手を渡った結果500ポンドの所得を生み出しているのに対して、右の例では125ポンドの所得しか生み出さないでいる。左の例の乗数は5、右の例のそれは1.25となる。こうした違いが生じるのは、80%と20%という資金の使用割合の違いを仮定しているためである。言うまでもなく、地域経済の活性化にとって重要なのは、乗数を1よりできるだけ大きくなるようにすることであり、その値が大きくなればなるほど良いことになる。

80%と20%の違いは、先に説明した「漏れ口」を表わしている。右の「20%の資金が地

域内に止まる場合」は、80%のそれより「漏れ口」が大きいことを示している。このように地域内乗数効果を高めるには、漏れ口を小さくし、地域内に止まる資金の量を多くすることが必要になる。80%と20%の違いは地域に止まる資金の量の違いであるから、消費がどれだけの割合で当該地域で行われているかどうかを反映したものである。したがって「漏れ口を塞ぐ」とは、当該地域で消費を出来るだけ多く行うようにしなければならないということに他ならない。しかし、消費者からは、「他の地域で消費を行うのは、この地域では欲しいものがないのだから仕方がない」、「少々不便でも、隣町に出かけた方がほしいものが手に入る」という声が聞こえてきそうである。地域の外の方が、求めている製品の価格は安いかもしれないし、充実したサービスを受けられるかもしれない、たとえばバスを利用したり、車を運転することで余分な費用がかかるとしても、消費者は利便性の高い場所で消費することを好むかもしれない。ビジネスにおいてもほぼ同様のことが言える。大きな駐車場をかまえた郊外の大規模店舗が賑わいをみせる一方、駅周辺の中心部の商店街がさびれ始めているのは、この点を指している。地域内乗数効果の概念は、こうした消費者の声を無視し、法的な強制力をもって、地域内での消費を進めようとするものではない。逆に、こうした消費者の心理状況を理解した上で、だからこそ地域内資金循環を高めるために、「今何が求められているのか」を問い、その答えにつながる措置を追求しようというものである。そうした問いを発しなければ、ますます地域経済は疲弊してしまうからである。LM3はそれを具体化したインディケータである。

それではこのような仮定はどのような意味を持っているだろうか。二つの例の違いは同じ額の資金が地域内で使用される割合が異なることにあるのだから、この仮定の意味は、消費者であれば所得の、企業であれば資本の支出先としてどれだけ当該地域を想定できるかということにかかっている。この場合の地域の意味とは次の点を指すだろう。

- ①消費活動の場所としての地域
- ②雇用機会の場所としての地域
- ③ビジネスの場所としての地域

消費、雇用、ビジネスのいずれにおいても当該地域が魅力あるものとなっていること、総じて、当該地域の資源を有効に使用するだけ魅力あるものとなっているかどうか重要である。地域経済の衰退とは、こうした意義が薄れてきているということに他ならない。したがって①～③は現状理解のためばかりでなく、目標としても設定されなければならない地域の性格である。

そこでこの点を、別の例からもう少し詳しく見てみよう。ある観光地のホテルとBB(ベッド・アンド・ブレックファースト)との地域内乗数効果の比較である。前者は年間17万ポンドの収益を、後者は10万ポンドのそれを得たものとする。どちらも業務を行うために、従業員を雇い、必要な資材を仕入れなければならない。BBは売上高の80%を地域内で支出

地域内乗数効果 (local multiplier effect) 概念の可能性

しているのに対して、ホテルは20%だけ地域内で支出している。この仮定を前提にした場合、第2ラウンドではBBは8万ポンド、ホテルは3万4000ポンド、次に第3ラウンドで従業員がいずれも同じ金額の支出(50%)をしたとすれば、それぞれ4万ポンド、1万7000ポンドとなる。このような違いは、どのような効果を地域経済に与えるだろうか。

最初の収益だけを考えるだけでよいのなら、ホテルの方が地域経済に与える効果が高いことになるが、第2ラウンド以降も考慮に入ればそうはならなくなる。実際第3ラウンド後も見れば、全体でBBは25万5000ポンド、ホテルは23万5875ポンドとなり、BBの経済効果の方が高くなる。このように地域内乗数効果を考えるならば、最初の収益だけを考慮した場合の結論とは逆の結論が導き出されることになる。

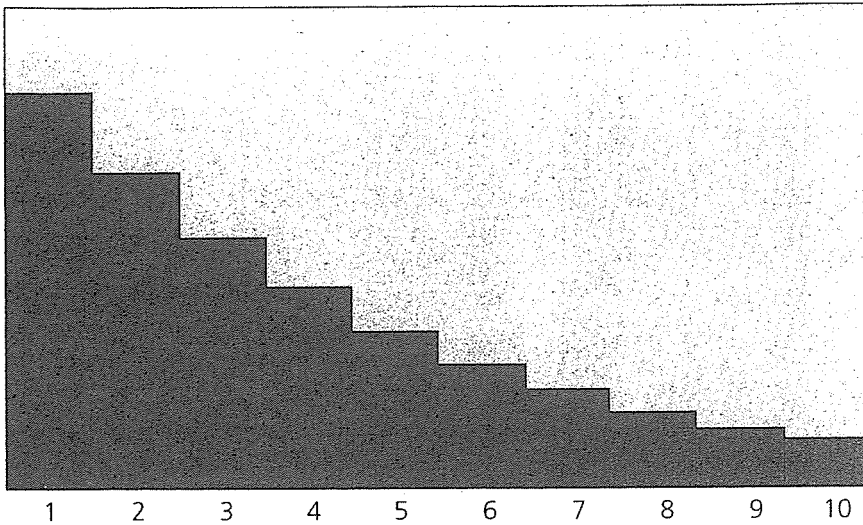
III 地域内乗数3 (LM3)

それでは、このような地域内乗数効果概念を、地域経済の活性化のためにどのように活用すればよいのだろうか。NEFは、この概念を研究対象にとどめることなく、実際に使える実践的概念として用いようとしてきた。多くの地域で経済が衰退していることは誰でも知っている。しかしそれらを実証する、明確で、説得的な証拠を提示できないでいる。「我々が今求めているものは、彼らの理解に役立つ、そして悪い決定や良い解決方法の地域における経済的影響を証明する簡単な方法である」。LM3はこうした課題に対して、「コミュニティにおける資金の支出の影響を測定する必要がある人々を意識したアイデア」であり、地域にどれだけの利益をもたらしているのかを具体的に発見する方法として、NEFによって開発された。

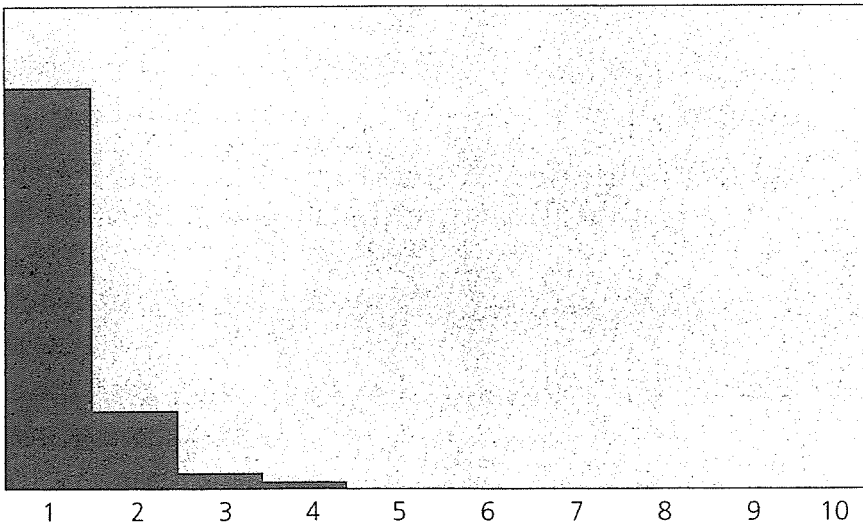
LM3は地域内乗数効果を前提とした概念である。しかし地域内乗数だけでは、経済的影響を証明する身近な方法とはならない。地域内乗数効果を高めるには、資金が多くの人々の手にわたり、地域内で循環する回数が増えれば良いわけだから、回数が増えた分、影響証明も細かな数字で行われることになってしまう。地域資金循環を測定する目的は、資金が実際にどこに行くのかを理解すること、そしてどこに行くことを望むのかを決めることができるようにすることにある。この課題に応えるには、資金循環の一般的傾向がわかるようにすることが重要で、必ずしも細部にわたる証明まで求められているわけではない。両者はやむをえない妥協と考えられるべきである。

第9図と第10図は、10ポンドのうち、その80%が当該地域に止まる場合と20%が止まる場合の資金循環を図示したものである。前者は循環が10回行われても、まだ若干の資金が当該地域に止まっているのに対して、後者の場合5回以降の循環では殆ど資金が外部に流失してしまい、地域に止まっていないことがわかる。このことからNEFは、地域経済の実態を把握するには、全ての資金循環を対象とするのではなく、あるところまでに回数を区

第 9 図



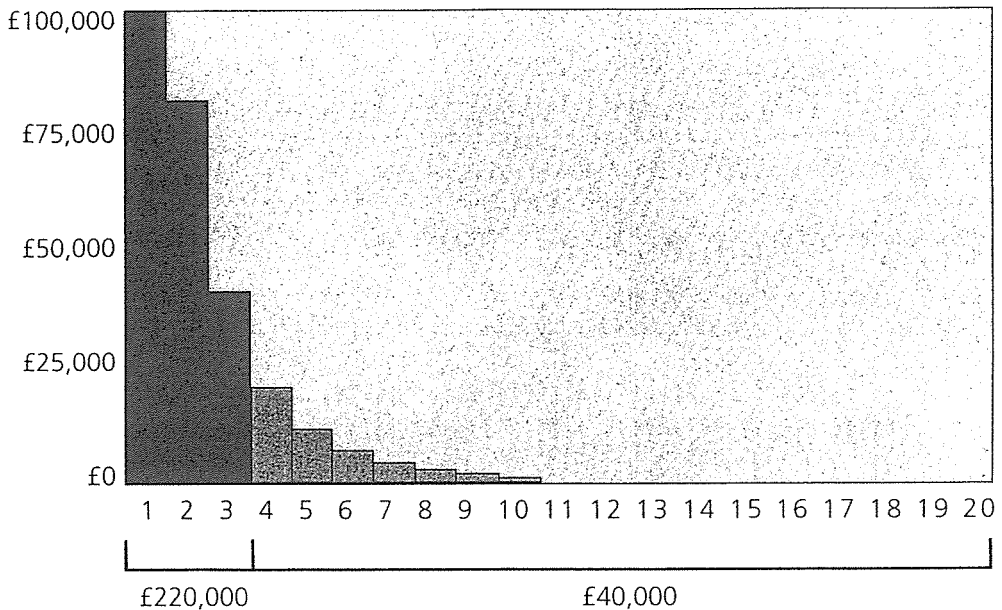
第10図



切って測ること十分であると考えた。

LM 3 は、資金循環の最初の 3 回だけを対象として乗数効果を測定する方法である。例えば先の BB の例で言うと、最初の 3 回の回転で 22 万ポンド、4～20 回の回転で約 4 万ポンドが支出されている。第 11 図に示されているように、地域内資金循環はおおよそ 10 ラウンドまで行われているものの、最初の 3 回転で 85% という大半部分をカバーしており、それだけを測定することでも、「地域経済における資金フローの十分な指標」となっていると

第11図



考えられる。この場合の LM3 で測定した BB の地域内乗数効果は 2.2 である。確かに残りの部分も正確な乗数効果を測定する上で重要である。しかしすでに述べたように、重要なことは、分かりやすい簡潔な方法で資金循環の実態をつかむことであり、基本的な方向さえ確認できればよいのである。LM3 は「解釈の一つの方法でしかないこと」を認識しておくことが重要である。

NEF は資金循環を具体的につかみ、その役割を明確にするために、二つの資金循環を想定し、その違いを強調している。資金循環の過程は同じであるが、どこから資金循環が開始するのかわ違が生じている。Path A は企業、病院、慈善団体などの組織から資金が循環していく場合であり、Path B は現金預け払い機の利用者とか、社会福祉サービスの受領者といった個人の場合である (第 12 図)。

- ① Path A 組織に資金が循環していく場合
- ② Path B 諸個人に資金が循環していく場合

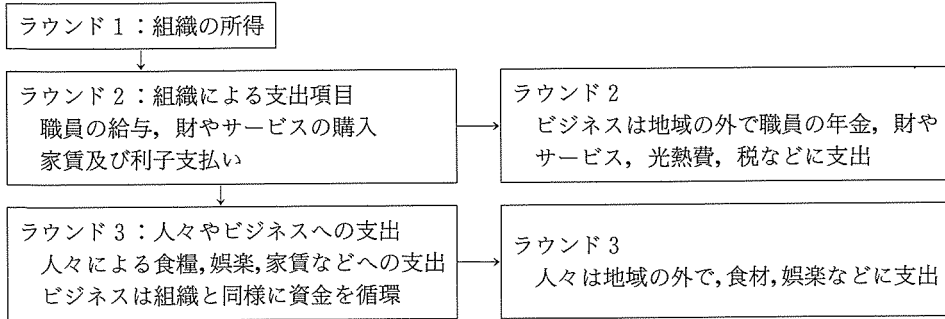
NEF はこれまで 10 のコミュニティを対象に、政府調達、食料及び農業、社会的企業、資金調達、福祉給付獲得キャンペーンの 5 つの経済分野で地域内乗数効果の実験を行ってきた。ここでは二つの社会的企業の事例を見てみよう。

第12図 資金循環の二類型

Path A 組織に資金が循環する場合

地域に資金が止まる

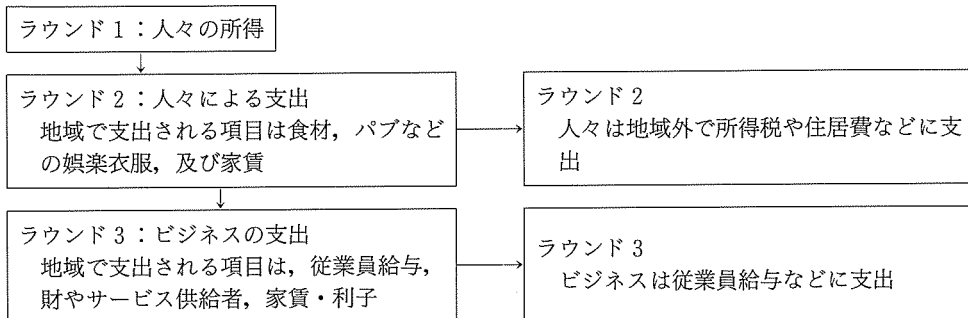
地域から資金が出て行く



Path B 人々に資金が循環する場合

地域に資金が止まる

地域から資金が出て行く



(出所) NEF, *The Money Trail*, 2002, pp.34-35.

(1) ECO

NEF は、イングランド北西部カンブリア・アップルビーに本拠地を持つ社会的企業 Eden Community Outdoors (ECO) で LM 3 に関するパイロット事業を行っている。

ECO のある年の収益が 5 万ポンドであったと仮定してみよう。アップルビーで 3 万ポンドが支出され、その内訳は従業員に 2 万 7500 ポンド、資材購入に 2500 ポンドであった。13 人の従業員に支払われた給与所得の平均 46% (1 万 2650 ポンド) が支出され、同様に資材購入は地域で 29% (725 ポンド) が支出された。全体の地域内支出は 1 万 3375 ポンドである。このことから、LM 3 は次のように算定される。

第 1 ラウンド	5 万ポンド
第 2 ラウンド	3 万ポンド
第 3 ラウンド	1 万 3375 ポンド
計	9 万 3375 ポンド

地域内乗数効果 (local multiplier effect) 概念の可能性

$$(5万 + 3万 + 1万 3375) \div 5万 = 1.87$$

このように LM 3 は ECO の場合 1.87 となる。

ここでは第 2 ラウンドと第 3 ラウンドの性格の違いに注意しておく必要がある。第 1 ラウンドの 5 万ポンドのうち第 2 ラウンドで 3 万ポンドだけアップルビィで使われたことは、逆に言えば 2 万ポンドは外の地域で使われたことを意味している。第 2 ラウンドは、社会的企業である ECO がどのように資金を使用したのかを示している。ECO は 2 万ポンドを使用して、外部から従業員を雇用し、外部から資材を調達したのである。それに対して第 3 ラウンドは、ECO の従業員が 1 万 6625 ポンドを外部で消費したことを示している。彼らは、ECO から得た給与所得の一部を、アップルビィ以外の地域に出かけ、例えば映画を観たり、ショッピングをすることで使ったのである。このように第 2 ラウンドと第 3 ラウンドは、それぞれ企業と消費者の行動様式を表わしているという違いを持っている。

LM 3 を算定する大事な論点は、地域経済への影響を理解するためだけではなく、それを改善する手がかりをつかむことにある。ECO が LM 3 の結果から学んだことは、資材供給者が地域の外に半分以上いるということであった。地域が抱えるニーズに応えること、そのために地域で使用されずに眠っている資源を積極的に活用しようとする社会的企業であるにもかかわらず、資源の半分以上が地域の外に依存している現状は、改善すべきことがらとして意識されなければならなかった。そのために ECO は、LM 3 の算定結果にもとづいて、サービスを提供してくれる地域供給者の育成に努め、他のグループと協力しながら地域内購入を促進するよう、改善に努めてきた。LM 3 はこのように、ECO という社会的企業の存在意義を強化し、それと同時にアップルビィ経済の基礎を作ることの重要性を認識させたのである。

(2) LOCAL (Longley Organised Community Association Ltd.)

LOCAL は、ロングレイのショッピング地域の再生を目的に設立されたシェフィールド近郊にある社会的企業である。おおよそ 20 万ポンドの総収入があり、そのうち 10 万 8000 ポンドを地域内で支出している。その内訳は、従業員給与に 7 万 2000 ポンド、ビジネスに 3 万 6000 ポンドである。LOCAL の指導者イワンは、問題の所在が明らかになるように、資材調達のためにビジネスに支出された 3 万 6000 ポンドのうち、年間 10 ポンド以下の取引しか行っていない小額の資材供給者を除いた 4 つの供給者を選び、その資金循環を検討しようとした。LOCAL と 4 つの供給者との取引額は 3 万 5100 ポンドである。彼らが地域に再び資金を使用したのが 5116 ポンド (15%) であった。残りの 900 ポンドも同様に 15% が支出したとすれば、その額は 135 ポンドとなり、したがって総計 5251 ポンドが LOCAL によ

て支出されたことになる。

同様のことを従業員給与でも行ったとすれば、再使用されたのが2万160ポンド（28%）となる。こうして3ラウンドまで循環した資金は33万3411ポンドで、LM3は1.67となる。

第1ラウンド	20万ポンド
第2ラウンド	10万8000ポンド
従業員給与	3万6000ポンド
資材供給者	7万2000ポンド
第3ラウンド	
従業員給与	2万0160ポンド
資材供給者	5251ポンド
計	33万3411ポンド

$$(20万 + 10万8000 + 2万5411) \div 20万 = 1.67$$

それではこの数値を我々はどのように活用すればよいだろうか。LM3の目的の一つは、この数値を上げることによって、地域経済の活性化を達成しようということにある。それではそのためにどのようにすればよいだろうか。答えの一つは、LOCALの収益の一部、例えば10%（2万ポンド）を地域内で支出するようにすることである。第3ラウンドで支出されている割合は15%であるから、実際の支出額は2万ポンドの15%、すなわち3000ポンドとなる。したがってこれを追加したLM3の算出結果は次のようになる。

$$(20万 + 10万8000 + 2万 + 2万5411 + 3000) \div 20万 = 1.78$$

勿論このような追加投資が全ての企業で可能になるというわけではない。しかし、LM3によって、その数値が低いのであれば、それを改善するために、「何をしなければならないのか」が明らかになるだろう。LM3は改善の方向を示すことのできるインディケータでもある。

IV LM3をどのように活用するか？

LM3の理論的フレームワークやそれが目指している目標が理解できたとしよう。それでは、この概念を実際にどのように活用すればよいのだろうか。この概念を実際に使うにはい

地域内乗数効果 (local multiplier effect) 概念の可能性

くつかの困難が待ち構えている。具体的には、以下の点が考えられる。

- (1) 調査とデータの収集
- (2) データ分析と評価
- (3) LM3の算出

(1) 調査とデータの収集

データの収集はLM3の算出にとって最も重要である。資料1と資料2は、Path AとPath Bそれぞれにおけるデータ収集のためのアンケート用紙である。左の欄に具体的な支出項目、右に地域内と地域外で支出される実額と支出先を記入する欄が設けられている。どちらとも記入しやすいように、実際にビジネスや個人が使用している比較的大きなカテゴリーで支出項目がたてられている。当初NEFは、回答者が実額を記入することを嫌うのではないかという懸念から、支出割合(%)で記入してもらうことを考えていたが、実額の方が記入しやすいという声を反映して、このようなアンケート用紙になったようである。

(2) データ分析と評価

データ分析と評価には、収集したデータの訂正と適正化の作業が含まれる。回答者の誤解によって、ある支出が適当な項目に記入されていないなかったり、本来地域外で支出されるものが地域内で支出されているように記入されているなど、様々な訂正箇所が出てくるからである。例えば、法人税、年金、光熱費などは地域内で支出されているように見えても、あらかじめ地域外支出項目に該当すること、逆にカウンシルタックスなどは地域内支出に該当することを回答者に知らせておかないと記入ミスが生じることになる。ある意味でこのような記載ミスは、LM3を算出する際にあらかじめ織り込み済みのことからである。光熱費は通常家庭内で使用した電気、ガス代などであるから、地域内支出だと予断をもってしまう。しかし光熱費は支払われればただちに地域の外に流失してしまう性格のものである。アンケートの記入を通じて、地域の人にそれぞれの資金が持っている性格を認識することができるようになる。

また地域外の契約者が当該地域で資金を多く循環させている場合もあり、LM3の算出は予期しなかった実態の発掘につながる場合もある。

(3) LM3の算出と目標

LM3は必ず1.00から3.00の範囲におさまるという下限と上限を持っている。しかし実際には、所得税や法人税などで控除されるから、その割合によってLM3の上限も定まってくる。仮にそれらに30%の支出が行われたとすれば、LM3は2.19となる。地域経済の活性化指標をLM3に求めるならば、この数値にできるだけ近づけることが目標となる。LM3の算出結果に基づいて、それが地域経済の活性化にとってどのような意味を持ってい

資料 1



Measuring local money flows
at _____

Business Spending Survey

*Thank you for taking the time to complete this form!
Please note your results will be kept in strictest confidence.*

Company Name _____

Address _____

Contact Name and Position _____

Where do you live? Local Non-Local - Please state where
(Please circle) _____

How is the organisation's turnover spent?

You may use monthly or annual figures, but please be consistent for all items below.
If you do not wish to disclose £ figures, please use this survey to assist you in completing **survey B**.
For each row (e.g., 'Staff costs'), the 'Total £' should be the total of '£ Local' and '£ Non-local'

Item	Total £ (Local + Non)	£ Local	£ Non-local	Please name the main local business/es you use for each category.
<i>Example - using £ figures</i>	<i>£1,400</i>	<i>£560</i>	<i>£840</i>	<i>John's Shoes</i>
Staff costs (excl. NI and pension)				
NI, pensions, and training				
Drawings (if sole owner)				
Director's fees and bonuses (if partnership)				
Supplies				
Subcontractors				
Rent/Mortgage				
Fuel & Utilities				
Repairs & Maintenance				
New Investment				
Insurance				
Taxes (VAT, Corporation Tax and business rates)				
Loan repayments				
Other (please specify)				

Total Turnover = £ _____

If you rent, please circle one of the following:

Private Landlord Private Landlord
(Local) (Non-local)

If you have any questions regarding this survey please do not hesitate
to contact _____ at _____

資料 2



Measuring local money flows
at _____

Personal Spending Survey

*Thank you for taking the time to complete this form!
Please note your results will be kept in strictest confidence.*

Employer Company _____

Where do you live? Local Non-Local - Please state where
(Please circle) _____

How do you spend your income?

If you wish to submit % figures, we recommend you first use **survey A** to determine how you spend your income.
Then divide each item, such as 'Food,' by your 'Total Spending' to determine % spending on each item.
For each row (e.g., 'Food'), the 'Total %' should be the total of '% Local' and '% Non-local'

Item	Total % (Local + Non)	% Local	% Non	Please name the main local business/es you use for each category.
<i>Example line</i>	<i>14.0%</i>	<i>5.6%</i>	<i>8.4%</i>	<i>John's Shoes</i>
Income tax				
Food (excl. restaurants/take-away)				
Entertainment (e.g. restaurants, video rental, betting, sport, pub)				
Clothes				
DIY/Garden/Household appliances and items				
Transportation (e.g. taxis, car tax, bus fares, petrol)				
Services (e.g. babysitting, window cleaners)				
Rent/Mortgage				
Council Tax				
Home costs (fuel and water, phone, TV tax, etc.)				
Loan Repayments				
Savings				
Other (please specify)				

Your total should = 100%

If you rent, please circle one of the following:

Private Landlord (Local) Private Landlord (Non-local) Housing Association Council Tenant

If you have any questions regarding this survey please do not hesitate
to contact _____ at _____

るのかを検討し、低い数値の場合は、資金循環の実態を精査し、その改善点を明らかにすることが重要となる。

結びに代えて

地域内乗数効果概念やそれを具体化した LM3 の開発を行ってきた NEF のねらいは、地域経済の活性化を目指して、「複雑な問題を説明するために、単純なタームを用いた、視覚に訴えることのできる方法を開発」することであった。地域経済の目に見えない便益を具体的な形で見えるようにしなければ、問題の所在も、地域経済の方向も発見することができない。地域経済の活性化とは資金が当該地域でうまく循環することと考える NEF の立場からすれば、公共投資事業や大型店舗、大規模工場が誘致されたからといって、そこで得た収益や所得が外に流出してしまうならば、経済効果は半減してしまうどころか、地域経済に与えるマイナスの影響の方が大きくなるだろう。NEF の活動は、そうした方向を追求してきたこれまでのケインズ経済学の批判を内在していたという意味で、乗数効果理論とは本質的に対極的な立場に立つものであった。NEF は、この指標を根拠に現在、イングランド各地の地域の実情に合った内発的發展を追究している。

* NEF はロンドンにある市民団体。1986 年「もう一つの経済サミット」(The Other Economic Summit, TOES) の開催を契機に設立され、多くの分野にまたがる研究活動や市民活動を行っている。

参考文献

- David Boyle and Andrew Simms (ed.), *NEF News from Somewhere*, NEF, 2004.
 NEF, *Plugging the Leaks*, 2002.
 NEF, *The Money Trail*, 2002.
 NEF, *Prove it!*, 2000.
 NEF, *Communities Count: The LITMUS Test*, 2001.
 NEF, *Communities Count!*, 1998.

(本稿は、(財)生協総合研究所『生活協同組合研究』343号、2004年8月所収の拙稿「地域内乗数効果の可能性—NEFの活動から—」を加筆・補正したものである。)